

八つ墓村

一九七一年 米倉齊加年筆

日本航空(株)
空港ランド

映画の持つ娯楽性と芸術性の
頂点を極める松竹映画超大作！

松竹超大作 八つ墓村



◇スタッフ◇

製作……野村 芳太郎

脚本……橋本 忍

監督……野村 芳太郎

撮影……川又 昂

音楽……芥川 也寸志

美術……森田 忠彦

録音……山本 和夫

照明……小林 正樹

編集……太田 和夫

調音……吉田 庄太郎

監督助手……大嶺 俊順

進行……福山 正幸

製作主任……吉岡 博史

協力……日本航空／空港グランド・サービス

サントラ盤……ビクター・レコード

◇キャスト◇

寺田 辰弥……萩原 健一

森 美也子……小川 真由美

要蔵・久弥（役）……山崎 努

春代……山本 陽子

小梅……市原 悦子

小竹……山口 仁奈子

井川家……中野 良子

鶴子……加藤 比佐志

勘治……井川 比佐志

磯川 警部……花沢 徳衛

矢島 刑事……綿引 弘

新井 巡査……下條 アトム

落武者……夏八木 勲

落武者B……田中 邦衛

落武者C……稲葉 義男

庄左衛門……橋本 功

大阪在住者……大滝 秀治

諏訪弁護士……夏 純子

美也子の妹和江……藤岡 琢也

八つ墓村在住者……初巳 正巳

久野 医師……下條 正巳

工藤 校長……山田 寅彦

馬喰 吉蔵……浜田 純

吉岡太一郎……森 庄吉

濃茶の尼……任田 順好

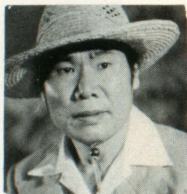
金田一耕助……渥美 清



萩原



小川



渥美

■映画「八つ墓村」について

横溝正史が探偵小説の執筆を停止した昭和39年から数えて十一年目、昭和50年秋に至って突如爆発した横溝ブーム。

それから一年有余、文庫本に、全集に、映画に、テレビに、ブームは燎原の火のように日本中に拡がり、その根強さは驚くばかりです。

文学史上、稀有の甦えりを見せた横溝正史は正に「推理文学から探偵小説への本家がえり」を果した偉大な作家と言えましょう。

横溝作品は、平易な語り口の中に読者を一種の中毒症状に陥し入れる魔力を秘めています。奇才坂口安吾が、日本の探偵作家を片っぱしからコキ下す中で『私は横溝君を世界のベスト・テン以上、ベスト・ファイブにランクしうる才能であると思っています。』この言葉は三十年後に見事に実証されたのです。

「八つ墓村」は戦後の横溝作品の中で、その特質である巧妙なトリックの面白さと、耽美口マンの世界が融和した長篇であり、作品のボルテージの極めて高いものと評価されています。

物語は数奇な運命の子、辰弥（萩原健一）が、はじめて会った母方の祖父の変死を目撃して、親戚筋の美也子（小川真由美）の案内で八つ墓村を訪れる。辰弥は村の富豪多治見家の跡取りとして遇されるが、彼が村に来た翌日から血腥い殺人が続発した。

毛利、尼子の戦乱から端を発した四百年にわたる怨念が息づいているこの村に飄然と現われた金田一耕助（渥美清）は、たちまち事件の渦中に巻き込まれる。しかし辰弥の兄久弥、小学校の工藤校長、祈禱師の濃茶（こいちや）の尼、辰弥の大伯母小梅、久野医師、辰弥の義姉春代が相次いで殺され、辰弥も鐘乳洞内で死地に陥ちる、折から落盤が起り、辰弥は九死に一生を得るが洞内から飛び立った蝙蝠の一群が多治見家を襲う。豪壮な居館は火焔につつまれ八人目の犠牲者は小梅と双生児の大伯母小竹であつた。かくて多治見の血は絶えた。そしておどろくべき金田一探偵の謎ときがはじまる。

脚本 橋本忍、監督 野村芳太郎、撮影 川又昂、音楽 芥川也寸志という「砂の器」を創ったスタッフが「八つ墓村」映画化に取組んで、早くも三年の歳月が流れました。

昭和50年6月ロケハン開始、一都二府二十八県に及ぶ足跡は、全国の鐘乳洞、山峡の鄙びた村々、蝙蝠の棲息地等、青森から沖縄まで、原作の土俗性、妖異性に忠実な理想のロケ地を求めての五万キロの旅でした。

昭和51年8月クランクイン
昭和52年9月クランクアップ

定評ある橋本忍の脚本は、原作の味を生かしながら、映画的に奔放自在のエンターテインメントを十二分に発揮したすばらしい傑作。撮影はパナビジョンを採り、名手川又昂が意欲満々、音楽の芥川也寸志は、鐘乳洞内の辰弥・美也子の道行きシーンに特に主題曲を作曲、「砂の器」以上の音楽効果を狙っています。

野村監督は「砂の器」以来、この一作に全精魂を傾けての演出です。出演者は、萩原健一、渥美清、小川真由美を中心に、適役、異色一二〇名に上るキャストを決定。その他、群集シーンのエキストラは延べ二千名を越えます。

製作期間二年三ヵ月、撮影日数一年一ヵ月、総製作費七億円、上映時間 二時間半。あらゆる意味で日本映画の枠を破った超大型娯楽映画の誕生です。

全国大都市ロードショーはもとより、国際映画祭、見本市への出品及びアメリカ、ヨーロッパをはじめ世界各地での上映等、製作・営業・公開方法を含めて文字通り日本映画の真価を世界に問う画期的な作品であります。

*今秋ロードショー

新宿

ミラノ座

(202)
1189

渋谷

パンテオン

(407)
7219

●新宿歌舞伎町

●渋谷東急文化会館1階